

2023年度 自己評価報告書

成増すみれ幼稚園

1、園の教育目標

「あかるく たのしく あたたかく」を園の理念とし、子どもたち一人ひとりの育つ力を信じて待つ姿勢を大切に、日々の保育に取り組む。

本園では教育目標として次の3項目を掲げる

- 1、身体を動かすことが好きな子
- 2、発見上手で好きなことが見つけれられる子
- 3、友だちや自分の良いところを見つけられる子

2、2023 度に定めた重点目標や計画、及び取組結果

① 物の管理や後始末の指導について

- 使ったものを片付ける、また次に気持ちよく使える、遊べるという意識が芽生えるよう、声かけだけでなく一緒に行った。
- 日々の積み重ねが大切であり、遊びを変えるタイミングでは声をかけたり、ゲーム感覚だったり子どもが楽しく取り組めるような言葉掛けを意識した。
- 使ったものは片づけてから次の遊びへ向かうように、遊びの中で繰り返し伝えてきた。活動の切り替え（外遊びも解放）などは、特に片づけてから次の活動へ向かうように言葉掛けをしていた。また、片付けの姿を積極的に全体に伝わるように認めるようにしていた。
- 物の管理が苦手な子には、個別のかごを用意してその箱に片づける習慣がつくようにしていた。進級当初は、荷物や帽子が散乱していることが多かったが、ほとんどの子が意識するようになり、減ったように感じる。またお当番活動ができたことによって、友達のもの（落とし物）等も拾って声をかけている姿を見かけるようになった。
- 片付けや作品の飾り方についてなど、クラス全体の話題に取り上げることもあり、子ども達と一緒に考える機会を大切にしてきた。一方、個人差があり物の管理が苦手な子もいる為、全体の声掛けで気が付かない子には、個別に声を掛けるようにしている。なかなか定着が難しいが、長い目で見守りながら繰り返し声掛けをしているところで、繰り返しの指導が必要。

② 遊びの見守りについて

- 広い視野で見守る。場を離れる時は保育者同士で声を掛け合い、子ども達だけにしないよう心掛けた。
- 遊び方(使い方)が気になる、危なくなりそうだと感じた際はすぐに制止することはせずとも、至近距離まで移動し見守っている。これ以上は許しがたい、危険と判断した際は一度制止し、具体的な理由も伝えることを意識した。
- 朝礼や職員掲示板で、前日のヒヤリハットが共有されるため、意識しやすくなった。ヒヤリハットを共有することで、自分なりにこの遊びはどうか考えながら見守りをするようになった。
- 子どもの遊びにおいて、危険だと認識して指導する職員もいれば、これも子どもの成長ととらえ見守る職員もいる。それぞれの価値観や認識の違いをそのままにせず、疑問を感じた場合は朝礼や掲示板で職員で情報共有することを意識できた。
- 一年半、ヒヤリハットの統計を取ったことで、発生時期、場所、対象児などが把握でき予測できるようになってきた。日々のヒヤリハットの共有だけでなく、学期ごとの統計を周知し新学期前に振り返りが出来るようにした。今後も続けていきたい。

3、教職員自己評価結果及び課題

評価 A よくあてはまる B おおむね当てはまる C 課題がある

評価項目		取組状況及び課題
学年やクラスの様子等をわかりやすく伝えている	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年だよりでは子どもが経験することそのねらいを意識して記載したが、不十分だった。大切にしていること等、要点をまとめて分かりやすく記載する。 ● 具体的な文章とそれに合わせた写真で、クラスの様子を伝えられるように心がけた。 ● 子ども達がどんな様子であったかに加え、前に比べてのクラス全体としての成長や、その時期のクラスの雰囲気、遊びや活動など、具体的に伝えるようにした。
保育室の安全点検、衛生管理に努める	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 園全体を通して安全、衛生管理は徹底していると思う。一方で保育中に気がつく部分もあった。見逃している部分がないように、職員で共有しながら引き続き日々細かいところまで確認をしていきたい。
保護者への事務連絡等を適切にわかりやすく伝えるようにしている	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年だよりでは、学年全員で文章を確認し、保護者に伝え漏れがないか、分かりにくい文章になっていないかなど確認するようにしていた。しかし、お知らせが不十分で、保護者から問い合わせがあった。状況が分からない人が読んでも伝わる内容かを意識して確認をする。
保護者からの疑問や相談等に適切に対応している	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝は室内遊びの見守りが保育者一人になるため、バス通園だけでなく、個人送迎の保護者との関わりも減ってしまった。日々の会話（ちょっとしたエピソードを伝えるなど）を心掛けながら信頼関係を築いていきたい。 ● チーム保育になり、クラスのことをわかっている保育者も増え、より相談しやすくなり、保護者対応などの悩んだこともすぐに相談し合い、より良い対応が出来るよう心掛けた。
学年の教育目標、基本方針に沿った活動が展開している	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 年月案の計画、振り返りの書式を見直したことで、確認しやすくなり、毎月意識的に確認出来るようになった。 ● 月案を見直しながら活動や対応、意識することを共有した。実際に試すことで新しく気がつくことや得られることもあったため、今後も基盤は変えず、より子どもたちの今の姿にあった活動を考え、実践していきたい。 ● 子どもが経験すること（指導計画）を何度も振り返り、そのためにはどんな環境設定ができるのか、子どもが興味を向くような種まきはなんだろうと、職員間で話し合い試行錯誤しながら保育に落とし込めた。
見通しが持てる環境設定をしている	B	<ul style="list-style-type: none"> ● カレンダーを掲示し、子ども達と先の予定を確認している。片付けの時間や活動が切り替わる時間を、時計で印をつけて示している。 ● 状況に応じて、見通しを個別に伝えたりメモを提示するようにした。環境設定、掲示物、一日の予定は、安心感、達成感が味わえるように考えているがまだまだ。使い辛そうにしていたり、迷っていたりすることもあるので、子どもたち目線に立って環境を整えていきたい。
知的好奇心を引き出し、高める環境設定をしている	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども日々の様子からクラスの中で流行っていることや、面白いと感じていることからヒントをもらい、活動や日々の保育に生かしてきた。 ● 環境や保育者の様子を見て、「やってみたい！」と思ってもらえるように色々な子の興味を引き出してきた。 ● 主体的に「やってみたい！」「知りたい！」と発信する子が多くなり、どんどん増えたように感じた。お店屋さんをやりたい→どんなお金の種類があるのだろう？けん玉を頑張りたい→自然と技の名前も覚える。そこからみんなに見てもらったり、一つの興味関心から出た疑問に対して、一緒に考えたりヒントを出したりした。状況によっては教えることもするが、調べることも子どもたちにとっての成長につながるので、きっかけやアイデアを出して見守ったり、頑張っていることを見てもらう時間も大切にしたい。

<p>結果を焦らず、ゆったりと待つ姿勢を大切にしている</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの成長や発達を長期的にみていく必要があるのは理解しているが、実際に保育している中で個人的に焦ってしまうこともあった。色々なことを試したり、環境を工夫していく中で、うまくいかないと落ち込んでしまったり、自分を責めてしまうこともあった。結果だけではなく、その過程や自分の思いや経験も大事にしながら取り組んでいくことが今後の課題であり、目標だと感じている。 ● 保育者の声掛けがすぐには子ども達の成長に繋がらないことも多いが、長い目で見守りながら支援するように意識して保育することが出来た。また、結果が目に見える成長だけでなく、子ども達の心の成長にも目を向け、保育することが出来たように思う。
<p>子どもの発想、ひらめきを生かした保育を展開している</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちとの話し合いの場面で、いつも子どもたちの発想に驚かされている。遊びの場面でも、イメージを膨らませて遊んでいる様子を見ている。出てきたアイデアや面白かった出来事をもっと周りの子達にも伝えられるようにしたい。 ● 自分たちでやってみて、うまくいかなかったことから気づく学びもあるので、材料や場所を整えたら、近くで見守るようにしている。中には自分からは発信ができなかったり、保育者がいることで安心できたりと子どもによっても対応が変わるので、臨機応変に声掛けをするようにしている。
<p>子どもたちのよいところに気づき、成功体験を共有している</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの姿、発言や発信に耳を傾けたり、言葉にして伝えながら、その子自身を認め自信に繋がるようにしていく。 ● 子どもたちの姿や子どもが何気なく発した言葉に耳を傾け、私自身の思いとして心で感じたことを言葉で伝えるように意識した。見守ってくれる人がいる、認めてくれる人がいる、応援してくれる人がいるという安心感に繋がるように。 ● 定期的に入園当初の様子を思い出すようにして、その子の成長を思い返せるように意識していた。その子の得意・好きを把握して、それを伸ばしていけるように、具体的に良いところを伝える言葉がけをしてきた。 ● 出来たこと・上手なことだけでなく、挑戦する姿や何かをやろうと頑張る姿など、その過程に目を向けながら認めるように声掛けをすることが出来たと思う。

4、外部指導について

	取り組みの効果と課題
園芸	<ul style="list-style-type: none"> ● 草花がより身近になった。ばら組も水やりが出来るようになり、草花への興味関心が増し、草花をこまめに観察し成長を楽しんでいる。 ● 外に出ると野菜や花たちに目を向ける子が増えた。「綺麗だね」「大きくなってきたね」等 草花の変化や見た感想を言葉で保育者に伝えたり、期待を持つ姿もあり、関心が芽生えているのだと感じる。 ● 「これはこんな匂いがする」等説明を聞いた上で匂いや感触、実際に体感することでより植物が身近に感じられていた。 ● うまく育たなかった野菜もあったが、枯れている野菜を見て「どうして育っていないのか」考えていた。園芸指導をきっかけにまた一つ子どもたちの考える力が育ったように感じた。
体操	<ul style="list-style-type: none"> ● 1 学期は苦手意識、恐怖心、無関心等から不参加(見学)者も目立っていたが、講師との信頼関係や仲良しの友達の影響から、2 学期に入って自ら参加しにいたり、運動の楽しさに気付いたりすることが増えたと感じる。又、自由遊びで鬼ごっこが流行ったことで”走り”が好き/得意になる園児も増え、体操への意欲的参加に繋がったと考える。すぐに諦める/飽きることなく保育者や先生と一緒にやってみようとする姿、初めの説明で理解できなくても講師や友達の姿をじっくり見て真似ることで徐々に理解していく姿に、成長が感じられた。更に、体操の時間以外でも講師と信頼関係を築く場面(一緒に遊ぶ等)があり、体操に興味に向きかけの一つとなり良かった。 ● 運動能力に差があるのは当たり前であり、出来ているか、出来ていないかではなく、その子の取り組んでいる姿勢やこれまでの過程を踏まえて指導して下さったのが良かったと感じている。実際目に見えて分かる成長だけではなく、体操に対しての気持ちや姿勢を見て心の変化や成長も感じられている。 ● 鉄棒や縄跳びなどの器械運動は、普段だったら興味を持たない子も体操でやったことをきっかけに練習したいと遊びの中で主体的に取り組んでいる姿がある。そのため、『やりましょう』と設定しているわけではないのに、遊びの中で主体的に行っていることで、筋力が自然と育っている子が多く、逆上がりや空中逆上がりなどができるようになっている子が多い印象。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ● 歌やゲームなどを通して、楽しみながら英語に触れることが出来て良かった。個人差はあるものの、英語に興味を持つきっかけとなった。 ● 明るい雰囲気やゲームや表現などを取り入れて行っていた。英語の時間で簡単な英単語にも触れていたため、子どもたちは自然と遊びの中で単語を発しており、吸収されていることを実感した。

5、2024 年度に取り組むべき園の課題

課 題	具体的な取り組み方法
指導計画立案、振り返りについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度書式を変えて、計画振り返りがわかりやすくなった。次年度はこれを基にさらに生かしていきたい。 ● 毎月、次月の指導計画を確認する時間を設けており、保育の見通しを立てている。またその月の振り返りや反省も行っているのでフィードバックしていた。 ● 振り返ることで、足りていない部分があることにも気づけた。毎日の保育に必死になってしまったことが反省。先々まで見通しをもっていきたい。
物の管理や後始末の指導について	<ul style="list-style-type: none"> ● 作って満足して、そのまま遊ぶことも持って帰ることもせず、放置していたり、捨てていたり“もったいない”と感じる場面があった。また限度が分からず大量に使い、管理ができずに結局落とし物になり、誰が作ったのかわからないこともあった。そういった雰囲気がクラスにも伝わっているように感じており、どう指導していくか悩む場面も多かった。年齢に応じた指導が出来るよう、話し合い実践していきたい。

学校関係者評価報告書

実施日 2024年1月20日

評価項目	評価	評価の内容
自己評価結果の内容は適切であったか	A	<ul style="list-style-type: none">● 園の教育目標を基に、重点目標や計画がしっかりと立てられている。先生方が一人ひとり目標等を意識して取り組んでいる。● 先生方が工夫をして子どもたちに指導している様子がよく伝わります。もう少し自己評価が高くて良いと思いました。● ヒヤリハットに関する継続的取り組みも素晴らしいと思います。
外部指導の評価結果は適切であったか	A	<ul style="list-style-type: none">● すべて適切に評価されています。● 新しい園芸の取り組みも、子どもたちに自ら意欲を持ち活動できるものとなっていてとても良い。● 結果ではなく体操への興味を持つきっかけになる指導、楽しみながら学ぶなどこれからも続けてほしい。
今後の課題は適切に設定されているか	A	<ul style="list-style-type: none">● 課題解決に向けて、園、先生方が情報共有して取り組んでいることがとても良い。● 先生方がもっと自信をもって仕事をする、を加えても良いと思う。
その他の意見		<ul style="list-style-type: none">● 引っ越しで環境が変わって大変な中、新しい取り組みに挑戦され、素晴らしい。● すみれのチームワークでこれからも子どもたちを楽しませてください。